

シンポジウム SY3-4 佐賀大学高度救命救急センターにおける高気圧酸素療法

阪本雄一郎

佐賀大学救急医学講座

【はじめに】

当院は年間の入院患者数 2,792人、救急搬送数 3,012 件、外来患者数 7,008人の佐賀市内にある地方の国立病院である。高度救命救急センターとして 24 床の ECU と 6 床の EICU を有しており高度救命救急センター内には 1 種の高気圧酸素療法の装置を有している。また、佐賀県ドクターヘリの基地病院であるとともに佐賀広域消防局との共同で医師同乗救急車事業も行っている。2014 年から導入された当院の高気圧酸素治療の 2023 年までの推移と内訳を検証するとともに今後の治療装置の効果的な活用に関して検討した。

【方法】

当院に高気圧酸素療法の機器が導入された 2014 年以降

の保険診療金額を診療報酬改定前後で比較しコロナ禍も含めた推移を確認した。さらに 2014 年から 2023 年の高気圧酸素療法を行った回数も診療科ごとの件数とともに推移を確認した。また、今後の年齢階級別の人口推移と入院患者の将来推計を確認した。

【結果】

2018 年から診療報酬が改定されており減圧症または空気塞栓に対するものが 5,000 点でその他のものは全て 3,000 点と当方で対象となりうる症例はほぼ大幅な増額となっておりコロナ禍を経て患者数が大幅に減少しているにも関わらず診療報酬改定後の 2018 年以降の保険診療金額は、比較的高い状態を維持している (図 1)。

【考察】

今後、高度救命救急センターへ搬送となる患者の特徴を踏まえると高齢者の増加による対応が必須になると考えられる。高気圧酸素療法は安全面でも遵守すべき項目があり高齢者の患者に対しても安全に治療を施行しうる説明と準備は重要であり、疾患に関しても高齢者の増加に伴う脳血管障害など今後、需要が高まると予測される診療科とより協調し準備を整える点が重要であると考えられる。

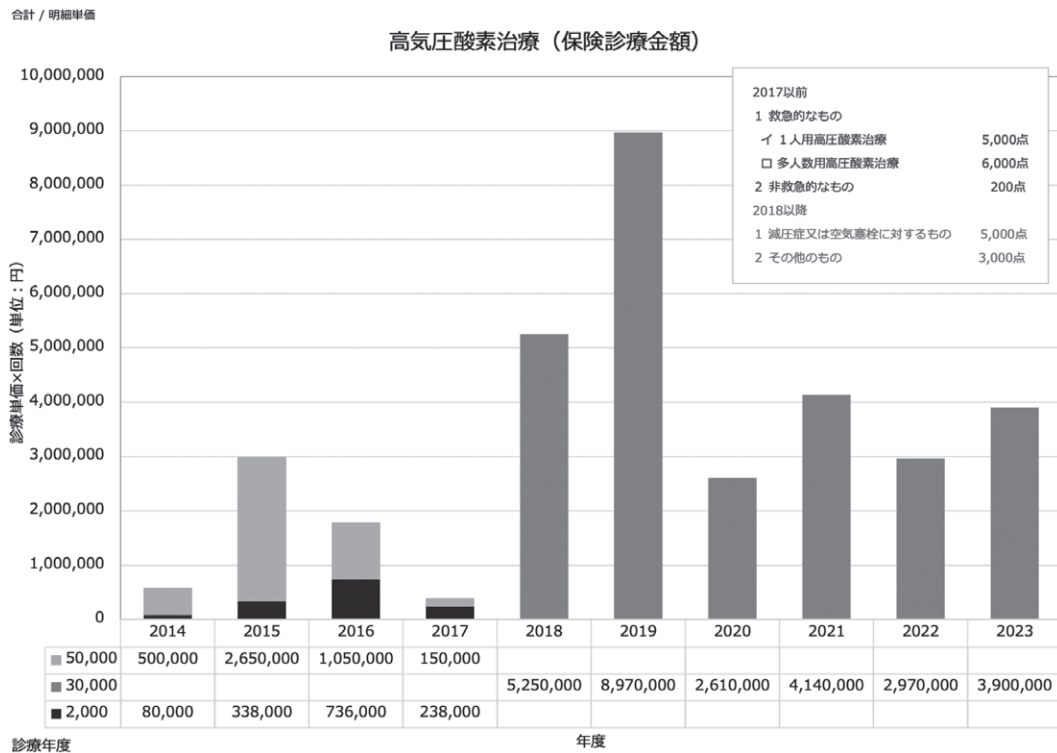


図 1